

第七回



富士山大賞

二〇二二 受賞作品歌集

令和五年は富士山が世界文化遺産に登録されて十周年を迎えます。

その間、大勢の皆様が努力で富士山の文化的価値の維持がなされてきていると存じています。さらに私達にとつての富士山は文化のみならず生活に溶け込み、日常を潤わせてくれる大きな存在でもあります。

今年も素晴らしい秀作を多数応募いただきました。

それぞれの短歌に富士山と共に有る暮らしが、ありありと感じられます。

どうか秀作の数々をご覧ください。作品からも元気をもらってください。

富士山大賞実行委員会

大賞

入学は富士のふもとの小学校
たんぼの田螺まだ居るだろか

東京都 倉重 恵造

準大賞

富士を背に朱く耀ふ柿の実の
渋抜く術を姑に習いき

東京都

久和 鏡子

ああ俺は生き物なんだ
こめかみがズンズン脈打つ富士の山小屋

長野県

鈴木 央

岡井隆記念賞
(学生優秀作品)

富士山の雨にも風にも動じない
そんな心を持ち続けたい

山梨県

入倉 宝

優秀賞

富士を蹴る如くに揺らす鞆に子らの声あり裾野公園

山口県

利長さだお

落葉松の森林限界過ぎゆけばここより富士は父性に入る

兵庫県

山本みさよ

業平も義経も見し富士山をへひかりの窓から我も見ている

東京都

長岡 貴子

めぐりゆくイオンモールの駐車場電線かからぬ富士をさがして

山梨県

田村 典子

煙吐く富士を見たとのメール着く歌会仲間の四月一日

千葉県

山本 明

山頂を諦めし子と果たしし子ふたりの甥が父となる夏

東京都

吉村 享子

機窓より見おろす富士にはげまされ母の介護にみとせをかよふ

東京都

野田 香織

ばあちゃんの金剛杖を登山部のお守りにして励む筋トレ

富士の貌いくつ集めていたのだろう父の残した銀塩カメラ

機窓より眼下の富士を見せしかば葛飾北斎いかに描くらむ

まだ登るどこまで続く岩の道ただひたすらに空を目指して

昭和十一年春小一の図画の時間は富士と朝日と

学生優秀賞

富士山の麓に生まれて十七年まだ見たことない山頂の景色

早朝の矢庭我が瞳に茜映す富士と凜と鳴る弦音

群馬県

金子 歩美

東京都

風野 瑞人

愛知県

星原 二郎

埼玉県

高橋 和佳

兵庫県

前田 あつ子

山梨県

大下 かれら

山梨県

渡邊 琴葉

外国語短歌優秀賞

wars
pandemic
fears
thou holy mountain
I in my wheelchair

戦争 パンデミック 恐怖 汝 聖なる山よ 私は車椅子にいる

Silva Trstenjak, Croatia
クロアチア

just passing
through this world
for a brief time
the snow and I
on the mountain peak

この世を束の間通り過ぎてゆく雪ひらと私山の頂で

Vandana Parashar, India
インド

with the summer heat
I'm slowly ascending
the blooming mountain
where glaciers are turning
into turquoise streams

夏の暑さのなか私は花盛りの山をゆっくり登る
氷河が溶けトルコ石の青色となって小川が流れる

Benjamin Bläsi, Switzerland
スイス

外国語短歌佳作

looking up at Rainier
a beautiful mountain you call
“America’s Fujisan”
I am firmly determined to live
in this foreign land until I die

「アメリカの富士」と君が呼ぶレーニア山見つこの異土に生き抜く決意す

Yukiko Inoue-Smith (Y.I. Smith), USA
アメリカ

sometimes life
is a high mountain
we must climb
without knowing
what waits at the summit

人生は時には頂上で何が待ち受けているか分からないまま登らねばならない高い山のような

Joy McCall, UK
イギリス

while sitting
on my wheelchair
an eagle in flight
I imagine myself
alighting on a mountain path

車椅子に坐り鷲が飛んでいるのを見ていると私自身が山路を登っている気分になる

Daniela Misso, Italy
イタリア

I wrap around me
a blanket of stars
by an alpine lake
my dreams adrift
in the silver currents

自らを星々で出来た毛布でくるむアルプスの湖のそばで私の夢は銀色の流れとなって漂う

Dru Philippou, USA
アメリカ

in February
on the summit of Mt. Fuji
the sun has set
the clouds like flames
remain as if coiling

如月の富士山頂に日のしづみ炎のごとき雲のまつわる

Hiroko Suzuki, Japan
日本

in morning breeze
the winding mountain road
lined with vincas
flower by flower, I find my way
to the childhood home

朝のそよ風の曲がりくねった山路に次々とヴィンカの花が咲き
私は子供の頃の家路を見出す

Chen-ou Liu, Canada
カナダ

from Tokyo to Kyoto
suddenly Mount Fuji
for a few minutes
in the deep silence
of the train sleepers

東京から京都へ向かう列車に眠る人々の深い静けさ—突然ほんの数分現れた富士山

DERLEY Marie, Belgium
ベルギー

on mountain paths
I climb enveloped in silence
this forest's rustle
like whispers of love
makes my longing stronger

静かさに包まれ登る山之路 愛の囁きのような森の葉擦れはわが憧れをなお強くする

Magdalena Dale, Romania
ルーマニア

picture postcard
of father's stance at Fuji
reminiscence
the silence of oneness
healing my loneliness

絵葉書の写真は富士山を登る父
一人でいることの静かさを思い出させ孤独を癒してくれる

LAKSHMI IYER, India

インド

TV war report
a cameraman zooming
on a child's bombed room...
untouched in the wall poster
the white peace of Mount Fuji

テレビの戦争報道—カメラマンは爆撃された子供の部屋を大写しに...
破壊されなかった壁のポスターには白く平和な富士山

Dan Iulian, Romania

ルーマニア

climbing in his footsteps
the grasshopper
only sees
my father's shadow
on the summit path

父の足跡を登りながらキリギリスは頂の路に父の影しか見ていない

Tim Gardiner, UK

イギリス

end of the summer
step by step I climb the path
of the old mountain
the echo of memories
fills my heart with love and song

夏の終わり一歩ずつ昔なじみの山の路を登る追憶のこだまが私の心を愛と歌で満たす

Mirela Brailean, Romania

ルーマニア

Fuji song
playing shakuhachi
for the climb
his flute a walking stick
lightens our book of dreams

登山のため尺八が奏でている富士の唄彼の笛は
杖であり私たちの夢の記録を照らしている

Kath Abela Wilson, USA
アメリカ

the first year
of walking alone…
this alpine path
now as familiar to me
as my loneliness

独りで歩く一年目…

このアルプスの小路は私の寂しさと同じくらい今や私に馴染み深い

Marilyn Humbert, Australia
オーストラリア

like Mt. Fuji
that is Japanese emotional support
my father
who has been my guiding principles
passed away

日本人の拠り所なる富士のごとく吾の指針なる父の逝きたり

Hiroko Sato, Japan
日本

mountain hermits
chanting in caves
day and night
and I in my house
alone these covid days

山の修道士たちは日夜洞穴で読経しているコロナの日々私は家で独り祈っている

Lesley Anne Swanson, USA
アメリカ

after pandemic
the place in which my old map
is always wrinkled
just folding and unfolding
the long path to Fuji-san

パンデミック後私の古い地図で畳んだり広げたりして
いつも皺になっている所は富士山への長い路のところ

Eduard TARA, Romania
ルーマニア

Fujisan, beauty
Focal point, place of desire
Perfect symmetry
Your sight lets my ego shrink
Humbleness widens my soul

富士山 その美 眺望の焦点 願望の地 完全な対称形
あなたを見ると私のエゴは弱まり謙虚さは心を拓くする

Robert Hannemann, Germany
ドイツ

if only
I were stronger
trying to move
the mountain
of you

もし私がかもう少し強ければあなたという山を動かそうとしたらうに

Susan Burch, USA
アメリカ

beaded earrings
in the shape
of a mountain —
just enough movement
through summer breeze

山の形をしたビーズのイヤリングが夏の微風に過不足なく揺れている

Engin Gülez, Turkey
トルコ

very slowly
fighting the thin air
I climb the mountain -
at the summit an old man
serves green tea in porcelain

とてもゆっくり薄い空気とたたかいながら登ると
頂上では一人の老人が茶碗に緑茶をふるまってくれる

Annette Akkerman, Netherlands
オランダ

lichen covered boulders
on the mountain peak
a prayer not asking
for anything
but this

山頂の苔に覆われた大き玉石これのみを求め祈りいる人

Randy Brooks, USA
アメリカ

longing for
the breasts of two-peaked
Mt. Futakami,
a boy is picking
white cluster amaryllis

二上の山の乳ぶさをなつかしみ少年の摘む白曼殊沙華

Yukiko Kawakami, Japan
日本

battered days -
advancing at a slow pace
uncertain is the summit
discovering the sky
among the snows of spring

打ちのめされた日々ゆっくり登るが頂上がどの方向なのかわからない
春の雪が降るなかようやく空が見える

MARIA TOSTI, Italia
イタリア

佳作

かくれんぼのうまい富士山今回も新幹線の窓から見えない
横道 玄

身は山へ荷物は駅へと送られて手にはむすびを二個載せられる
角田 正雄

雲海の波より頭をあらはせる富士に最初の「ただいま」を言ふ
高橋 香子

ふるさとの三島の街に湧き出づる霊峰富士の雪解けの水
鈴木 経彦

富士山はもっと高いかとベンネビスを仰ぎて問いし吾娘も五十路に
彦久保長治

旅をゆく万葉びともながめけむ足柄峠に迫る富士の嶺
関 静男

サラサラと風が揺らした君の髪山の自然と人の笑顔と
鈴木麻位子

頂上へたどり着いたら言う「やっほー」返ってきたのは隣の子から
秋山 桃香

土手上を富士山崇め後ろ歩きびしびし伸びるふくらはぎかな
茂木 敏江

富士山に登ろう山小屋に泊まろう夫は幼きひかりをなぞる
野田 鮎子

御殿場へ大砂走りを駆け下る富士の山肌くすぐりながら
山本 繁徳

岩越えて竹搔き分けてひとやすみ亀の甲羅が迎えし我ら

石澤 梨未

富士塚の頂きに子を抱きて立つ富士は銀杏の金に抱かれつ

中山 春美

焼きつける大パノラマと筋肉痛私の夏の幕が上がった

芹澤 那南

駿河湾に富士沈めても富士残る海のプールに顔が出ている

後藤 克博

ご来光見ていま電車に乗らんとす振り返る我振り返る富士

松田 沙樹

「俺が来るときには富士が顔出さん」桜えび食べ笑う悪友

細田 泰司

富士山頂に神立雲がそそり立ち炎暑の空を過るものなし

雅 風子

海を渡り安房へ逃れし頼朝の後姿を富士は見てをり

富野光太郎

前をゆく人が見えない霧のなか須走口へ駆けおりゆきき

村松 建彦

富士山が見えるこの窓励まされ明日卒業感謝込め拭く

佐々木浩文

ふくよかなボテロの富士を想いおり噴火の前の山体膨張

植田 和子

辰年のパリで逢いたい富士山が帽子みたいな「タンギー爺さん」

若松 優子

すっぴんの笑顔を贈るこの国でいちばん月に近い場所から

里山 璃空

白鳥の群れみな帰る湖（みずうみ）にくっきり映る富士山の影

市川 光男

巡礼のごと赤旗をたててゆき白一色の山頂に立つ

福地 秀雄

人好しで勝気で涙もろかった富士額だと照れて笑って

山内 昌人

山酔ひに下る悔しさ爪先に登り来る目の刺さりて痛し

小澤 久子

御巢鷹の慰霊登山の青空をしばしみつめてしゃぼん玉吹く

曾根新五郎

鈍行の列車の窓に迫り来る富士を黙って父と見つめり

影山 博

とおき富士くきやかな空を牧水の風ぜいの鳶（とんび）ゆるり輪をかく

古谷眞利子

白銀（しろがね）を失明まへに眼うらへ富士山（おやま）はどつかとわが内に在る

大瀧 壽子

どこまでも続くおしゃべり三河富士介添（かいぞえ）歩行全盲の君

福田万里子

富士山が見えたらラッキー歩行器で棟内めぐる朝のりハビリ

武蔵 和子

ひたすらに男社会を泳ぎきて定年の日の富士山清し

河原 美恵

足跡を九合目まで残しきぬ富士は眺むる山としてある

澤井 潤子

バスで行く富士山五合目夏の日の親子五人のそこは頂上

岩瀬 悦子

上京の夜行列車「瀬戸」号に夜明けの富士見し十五の春よ

小田 閑香

世界には何かがあるということの典型として見てきた山を

島本 慶徳

雲上の富士の山小屋朝日満ち光の束が我を溶かさん

大和 紀正

西行の思い奈辺にさまようや巻雲かかる御山を仰ぐ

土屋 昌也

告白に紅葉台でのうなづきを今になっても富士のせいだと

室井 睦美

岩の間に水落ちる音トツピンシャン、トツピンシャンとぞ脛にひびく日

川元 暢子

たたなはる甲斐の緑を引き連れて群青に立つ七月の富士

市之瀬 進

雨風の富士の山頂あつあつの甘酒のんどに体うるほす

田中 悦子

富士山に夏の訪れ告げるかに灯(ひ)の行列のジグザクつづく

桜田 一夫

茶臼嶺に法螺貝吹ける修験者ゆ「山は母なり」と飛ぶように降(お)る

長内ヒロ子

大観の墨絵の富士がわが窓に見ゆる元旦明けゆくみ空

佐藤加代子

富士山の見える最も北という花塚山の尾根道くだる

高橋まさじ

富士の山いえからみえたの妻の声かがやきながらよろこぶわれも

丸谷 潔

運動会大波小波のなわとびの波の向こうに北齋の富士
父名付く登山記念の富士子の名1点足らぬが励みとなりし
海底ゆ雪解け水の湧き出づる海に根を張る利尻の富士の

岡本 和子
佐藤富士子
藤林 正則

学生佳作

広大な我らの大地にそびえ立つ巨大な富士と共に過ごす日々

岡 哲郎

目の前に当たり前にある富士山はいつも私の心の支え

櫻井 愛莉

水面に鏡のように浮ぶ山富士山二つ不思議な景色

羽田 萌里

富士山の山小屋の明り点々と北麓の天に輝やくイルミネーション

天野 陽介

この町のみなが見上げる夏の富士夜は明りが空へと続く

岡本梨菜子

いつももある世界遺産の富士の山日々感動を与え続ける

小野 瑞稀

お正月駆け抜けていく湘南路選手の背には雄大な富士

三浦 彩葉

いつまでも変わらぬ富士に見守られ変わりゆく世とわたしの心

清水 茜

【選者】

選考委員長 三枝昂之（山梨県立文学館館長、日本歌人クラブ名誉会長）
選考委員 穂村 弘（日本経済新聞歌壇選者）

東 直子（東京新聞歌壇選者）

外国語特別審査員 荻田吉夫（元ニューヨーク総領事 元宮内庁式部官長）

結城 文（国際タンカ協会会長）

大賞準大賞作品の披講 堤 公長（堤家十八代披講会会長）

【開催団体】

富士山大賞実行委員会

NPO 法人富士山自然文化情報センター

NPO 法人富士山クラブ

世界連邦文化教育推進協議会

全国富士講睦会

一般財団法人 徳大寺文庫

【後援】

國學院大學 富士山世界遺産国民会議

【映像協力】

富士山世界遺産センター 山梨県 ロッキード中

【表彰式】

令和5年2月5日（日）14時から開催

【会場】

東京都中央区立日本橋公会堂（日本橋劇場）

